



巻頭言

著者	小田 淑子
雑誌名	東アジア文化交渉研究 別冊 = East Asian Cultural Interaction Studies Supplemental
巻	6
ページ	1-3
発行年	2010-07-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/3337

巻 頭 言

本年1月、グローバルCOEプログラム関西大学文化交渉学教育研究拠点（Institute for Cultural Interaction Studies 略称ICIS）は、第3回国際シンポジウム「文化交渉としての宣教・布教——近代以後の新しい趨勢——」を実施した。シンポジウム当日は、主に近代以後のキリスト教と仏教及び日本の諸宗教の宣教・布教を中心テーマに議論が展開されたが、本書『東アジア文化交渉研究』別冊6は、それら研究発表、特別講演及び総合討論を収録した報告論集である。

研究発表では、ハワイの日系宗教、アメリカで根づいた禅仏教の僧院、チベットでのキリスト教宣教師の活動、賀川豊彦の中国での活動など、それぞれに特徴のある個別事例が報告された。狭義の布教活動にとどまらず、日本の宗教が異なる宗教伝統や文化と接触して生じた変化も報告され、布教・宣教が文化交渉の現場であり、文化交渉学に最適な研究対象であることが示された。

3つの特別講演では、国境を越えて布教活動を行い、多国籍の信仰者を獲得しつつあるアジア系宗教の動向、日本へのキリスト教宣教150年の歴史的回顧と現状の問題提起、世界規模のキリスト教宣教の歴史を俯瞰して、その傾向の変化及び東アジアにおけるキリスト教とのあり方の考察や分析が主要なテーマとして取り上げられた。現代に特有なインターネットやグローバル化の問題と宗教との関係も議論された。

最後の総合討論では、コメントとフロアからの質問に対する研究発表者と講演者による応答と説明によって、議論はさらに大きく広がり、深められた。特にグローバル化が進み、宗教自体のグローバル化も生じているが、それに対抗するようなナショナリズムや民族・地域の自己主張に向かう運動があり、これにも宗教が関与していることが指摘された。

出自の宗教を保持する移民や世界各地のキリスト教徒、すでに出現している多国籍宗教集団においても、個人のアイデンティティは宗教、民族、ナショナリティなどによって複雑になっている。そして普遍的宗教であると自負してきた世界宗教も、どれ一つとして普遍性を実現できず、インカルチュレーション（inculturation）という各地の伝統文化との融和を重視する方向に進んできている。これらの指摘をふまえて、現代において、相互に異なる宗教を他者と認めた上での共存を真剣に模索すべきことが一つの結論だった。

本シンポジウムは、現在の世界においてさまざまな宗教が生きて動いている事実を確認させたと言えるだろう。日本人は一般に宗教を話題にすることを嫌い、避けているため、こうした事実にも気づきにくいのが、グローバル化が進む現代においては、日本人も宗教に関心を持つ必要があることを示したと思われる。また、宗教は教義思想や儀礼の問題として考察される場合

が多いが、経営とマーケティングの観点からの考察があったように、宗教とは改宗による信者の獲得であること、また改宗に伴う個人のアイデンティティの問題などが議論され、宗教が生身の人間の問題として考察された。教義思想として宗教を考察する場合とは異なる宗教の姿、時には国家の宗教政策と関係し、グローバル化やインターネットの普及に対応し、個人のアイデンティティの次元に潜む宗教の活動、機能、形態の一端を学ぶ機会になった。

本シンポジウムの成果は、第一に、キリスト教に関してさまざまに議論されたことである。本プログラムでは、聖書の中国語訳が言語文化における文化交渉の典型として考察されてきたが、宗教問題としてキリスト教を取り上げることは比較的少なかった。今回は、日本及び中国におけるキリスト教の歴史と現状、日本と中国のキリスト教徒の交流が報告され、韓国におけるキリスト教の驚異的な広がりとの相違が話題になった。韓国キリスト教の専門家の知見が加われば、より多角的な議論ができただろう。この点は別の機会に議論を継続発展させたいと思っている。東アジア文化を考える上で、キリスト教がもたらした異文化接触をより広範にかつ深く研究する必要性を実感させられた。第二に、繰り返しになるが、日本から海外に出て行った宗教の場合も含めて、布教・宣教は宗教による顕著な文化交渉の現場であることが確かめられた。最近のグローバル化やインターネットも宗教にも影響を与える重要な文化要因の一つとして注意しておかねばならないことも強調された。

最後に、本シンポジウムの開催にあたって発表者の先生をはじめ、事務の方々を含め、多くの方々からのご支援を賜りましたこと心より御礼申し上げます。今後、本書が、同分野での研究促進に寄与できればと願っています。

2010年7月

関西大学文化交渉学教育研究拠点
事業推進担当者 小田 淑子

グローバルCOEプログラム
関西大学文化交渉学教育研究拠点 (ICIS)
第3回国際シンポジウム

テーマ：文化交渉としての宣教・布教——近代以降の新しい趨勢

日時：2010年1月23日(土)

場所：関西大学以文館4階 セミナースペース

主催：関西大学文化交渉学教育研究拠点

〈開会挨拶〉 陶徳民 (関西大学ICISリーダー)

〈趣旨説明〉 小田淑子 (関西大学ICIS)

〈講演〉

ハワイにおける「日系」宗教 宮本要太郎 (関西大学文学部教授)

アメリカにおける仏教の布教と浸透

—— ローリー大道老師の禪マウンテン僧院の誕生 ——

岩本明美 (関西大学非常勤講師)

モラヴィア教会のチベット布教

伏見英俊 (関西大学ICIS)

賀川豊彦と中国

劉家峰 (華中師範大学東西方文化交流

歴史文献センター長)

〈特別講演〉

グローバル宗教の経営とマーケティング——アジア系宗教を中心に

中牧弘允 (国立民族学博物館教授)

日本におけるキリスト教の宣教

土屋 博 (北海道大学名誉教授)

国際視野、当代关怀——传教运动与当代国际关系

徐以驊 (復旦大学アメリカ研究センター教授)

〈総合討論〉

コーディネーター 陶徳民

小田淑子